

調査の概要

○調査実施日 令和3年9月2日（木）  
 ○調査の目的 ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。  
 ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPODCAサイクルを確立する。  
 ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。  
 ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。  
 ○調査内容 ◆学力に関する調査（国語・社会・数学・理科A/B/C・英語）※理科A2校、理科C3校  
 ◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）  
 ○調査参加者 中学3年生（本市参加者 630人）  
 ※教科や出題範囲に限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

教科別得点分布・無解答率

観点別・設問別結果

調査結果について

【教科別平均点・対府平均比経年比較】  
 全教科の結果は、令和元年度から右上がりで向上しており、大阪府平均との差が過去最も縮まりました。

【教科別得点分布】  
 全体の傾向として、得点分布については、府全体の平均に比べ、上位層が少ない傾向が見られました。

【観点別・設問別結果】  
 各教科の観点別大阪府平均正答率との差が、「知識技能」では、令和元年度：2.97P 令和3年度：1.85P 「思考判断表現」では、令和元年度：2.96P 令和3年度：1.53P とそれぞれ縮まりました。  
 目標を段階ごとに細かく分けた授業による基礎学力の定着や、グループ活動などをおとした思考力の向上など授業改善を進めてきた成果であると捉えております。

【無解答率】  
 近年、無解答率の大阪府平均との差は縮まってきたており、令和3年度は4教科で過去最も縮まりました。特に数学と理科は、大阪府平均よりも無解答率が少ない結果であり、習熟度別指導や個に応じた指導による成果であると捉えております。

【今後の取組み】  
 各校では、本調査の結果及び分析結果を保護者等へお知らせするとともに、各校で作成した学力向上プランに基づいた授業改善を中心とした学力向上の取組みを学校全体で行ってまいります。教育委員会では、指導主事を各校に派遣し、授業や取組みへの指導助言、教育委員会主催の教員研修等の充実を通して、各校の授業改善、学力向上の取組みを支援してまいります。

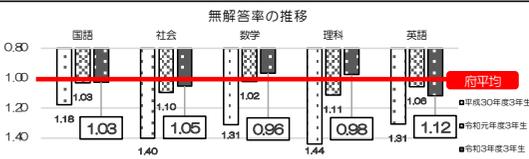
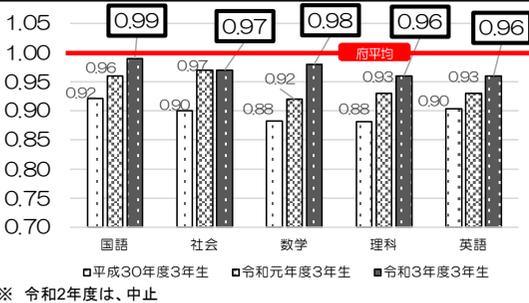
【学力の向上が見られた学校の取組み】  
 ・生徒と学習計画や授業の目的、目標を共有することで、授業の見通しを持たせることや、話し合い活動、相互評価を組み込み、互いの良いところを認め合うことができる授業づくりを行う。  
 ・タブレット端末やプロジェクターなどのICT機器を効果的に活用し、複数の生徒でレポートを共同編集するなど、生徒の学習意欲の向上を意識した内容となるような授業づくりを行う。  
 ・学習状況だけでなく、学校生活全般の主体的な行動に焦点を当て、当たり前のことを取り組む児童生徒を認めることで自己肯定感や自己有用感を高める取組みを継続して行う。  
 ・教員全員が生徒とともに過ごす時間を増やし、人間関係を築くことや様子を見守り未然にトラブルを防ぐことで落ち着いて授業に迎えるための環境整備を行う。  
 ・生徒会活動を中心に児童生徒の主体性が発揮できる場を並び、学校運営に参画するなどの取組みを行う。  
 ・学校全体で教員が日々の授業を見合い教科の指導方法や発言のポイントなどを具体的にアドバイスし合うことで、日々の指導力向上を図る相互授業参観の取組みを行う。  
 ・「摂津市職種体験プログラム」を実施し、企業が抱える課題に生徒が考えたことを提案する活動をおとして、学習意欲の向上を図る。  
 ・中学校区内の学校間で研究授業及び公開授業を相互に参加し合い、児童生徒に伝えたい力や学力向上の取組みを共有し、小中学校での9年間を見据えた学力向上の取組みを行う。

教育委員会では、このような学校の取組みを好事例として、市内の各学校にその意義・目的とあわせて普及させることで、市内全体の児童生徒の学習意欲の向上を図り、学力向上に努めてまいります。

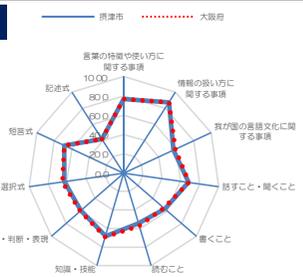
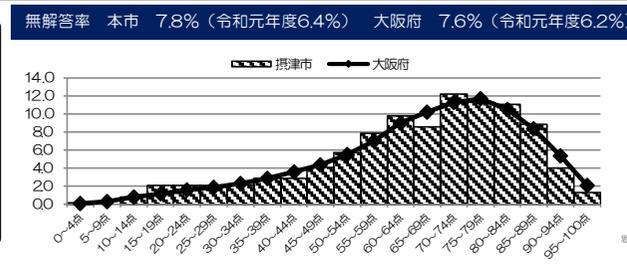
教科別平均点・対府平均比経年比較

|        | 国語   | 社会   | 数学   | 理科   | 英語   |
|--------|------|------|------|------|------|
| 本市平均点  | 65.0 | 46.6 | 47.1 | 41.4 | 50.9 |
| 大阪府平均点 | 65.8 | 48.2 | 48.1 | 43.1 | 53.2 |
| 対府平均比  | 0.99 | 0.97 | 0.98 | 0.96 | 0.96 |

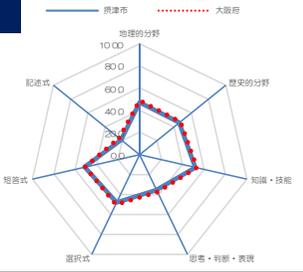
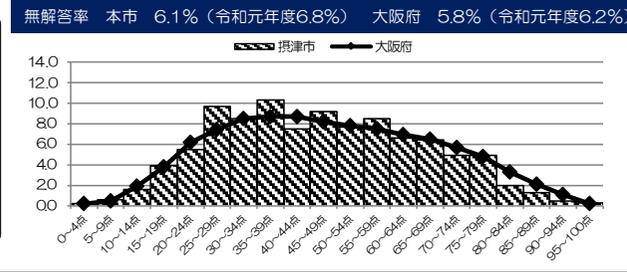
対府平均比とは、大阪府平均を1としたときの本市平均の値です。  
 ※ 理科については、AとCの平均で算出しております。



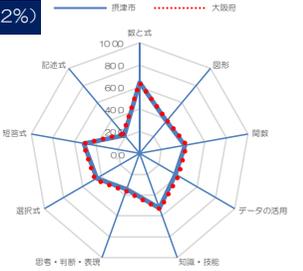
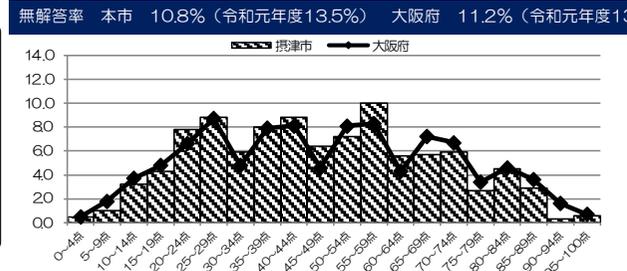
国語



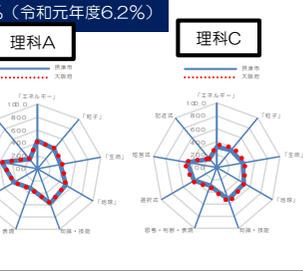
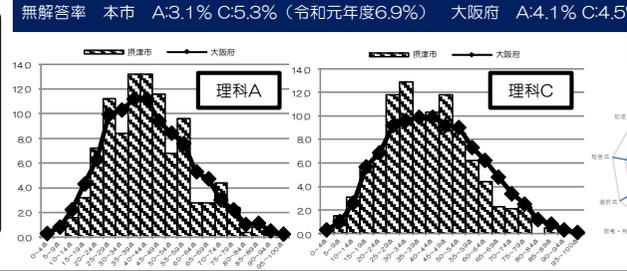
社会



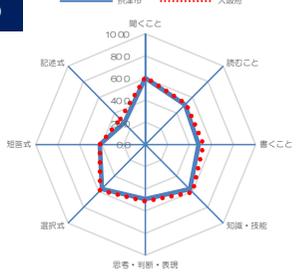
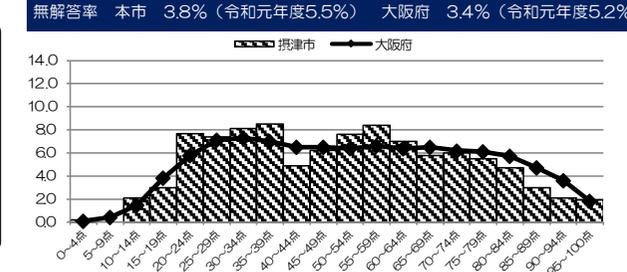
数学



理科



英語



授業についての意識調査

生徒アンケートの質問項目は、令和元年度1・2年生から授業に加え、家庭学習についての項目が追加されました。市内の中学校の傾向と比較するため、大阪府全体の結果も記載しています。

「テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。」以外のすべての項目において、「当てはまる」と回答した割合が大阪府全体を上回っています。また、中学1年生から同一集団を経年で比較しても進級するにつれて上昇する結果となりました。

【言語能力・情報活用能力】

「授業中、自分の考えを書く場面」や「伝える場面がある」の項目について

多くの学校が「言語能力」をテーマに授業改善を進め、協働学習を積極的に取り入れた活動を行うなど、組織全体で取り組みを進めてきた結果と捉えております。

【集団づくり】

「授業中、間違っても笑われない」の項目について、昨年度の同一集団と比較すると「当てはまる」と回答した割合が12.9P向上しております。『魅力ある学校づくり』をテーマに、一人ひとりの自己有用感を高めるための取り組みや居心地の良い環境・集団づくりを行ってきた成果であると捉えております。

【家庭学習の習慣】

「自ら課題を見つけて、家で勉強している」の項目について、中学校区の小中学校で連携した「家庭学習週間」や「自主学习」の取組みなどを実施し、継続してきた成果として捉えております。

引き続き、上記の取組みに加え、生徒の主体的な学習に向けた効果的なタブレット端末の活用などの授業改善を中心に取組みを進め、市内全体の学力向上に努めます。また、「未来を切り拓く力」を育み、意欲の向上を図るため、市全体のキャリア教育に力を入れていきます。

チャレンジテストについては、大阪府全体の調査結果とともに、「ワークブック」や「かだめしプリント」などの学習ツールが大阪府教育庁市町村教育室小中学校課のWebページに掲載されていますのでご活用ください。

かだめしプリント

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasvokukai/index.html>

ワークブック

<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

ことばのちから

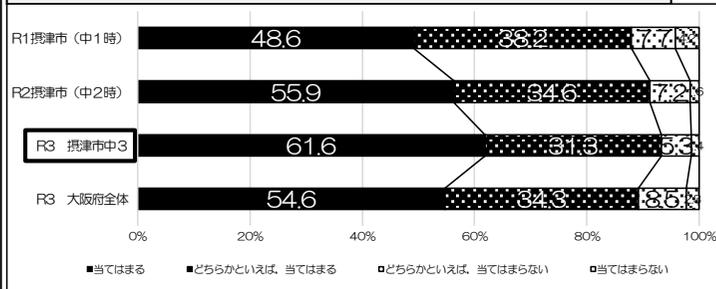
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kotobanotikara/kotoba-katuwou.html>

中学生チャレンジテスト（正答例やリスニングのスク립トもあります）

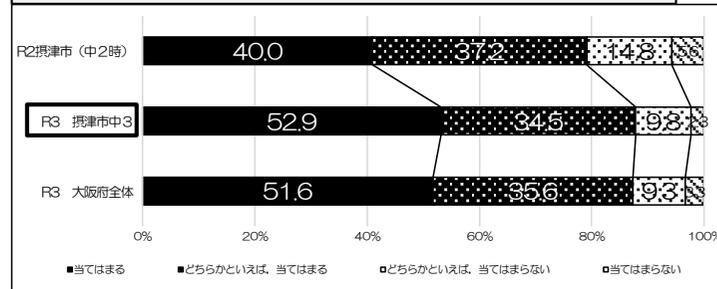
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/index.html>

前年度までの回答及び今年度の大阪府全体の回答との比較

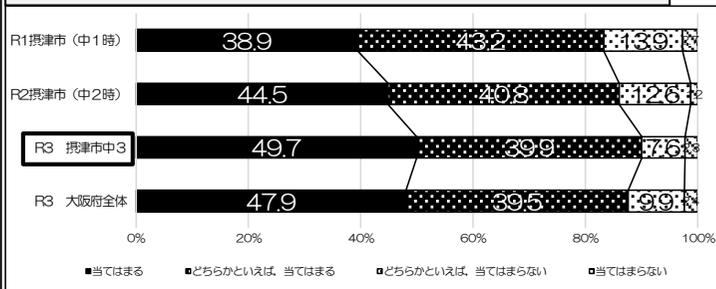
授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



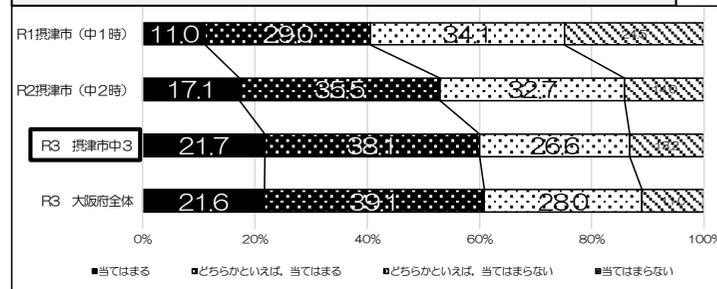
授業中、間違っても笑われない。



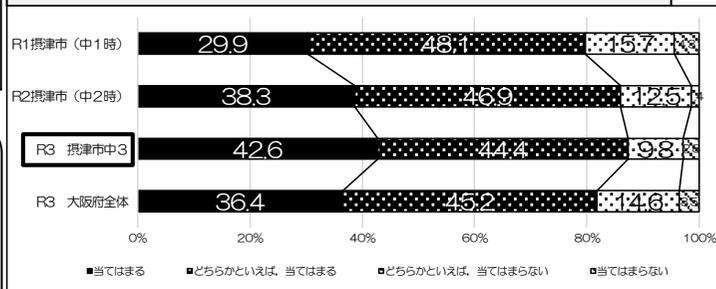
授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



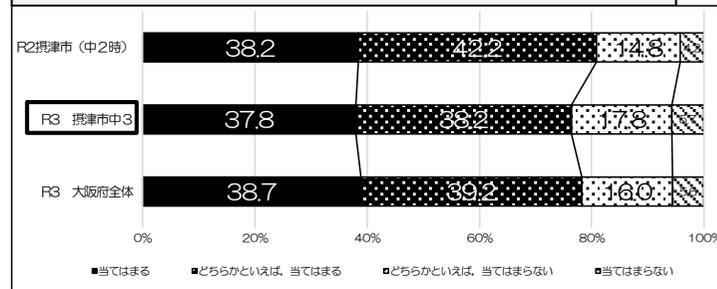
自ら課題を見つけて、家で勉強している。



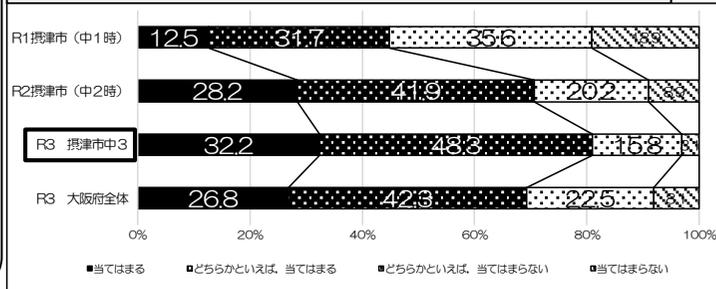
授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。



授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。

